

令和 6 年度
地域のチカラ協働事業及び
市民協働モデル事業
取組報告書

鹿沼市 市民部 協働のまちづくり課

目次

はじめに.....	1
掲載取組一覧.....	2
1 地域のチカラ協働事業	
(1)西大芦地区自治会協議会.....	4
(2)南押原地区コミュニティ推進協議会.....	5
(3)東大芦地区コミュニティ推進協議会.....	6
(4)栗野地区コミュニティ推進協議会.....	7
(5)清洲地区コミュニティ推進協議会.....	8
(6)栗野4地区合同(粕尾地区コミュニティ推進協議会).....	9
2 市民協働モデル事業	
(1)磯 GO!みらいの会.....	10

はじめに

市では、第8次鹿沼市総合計画において「協働・共創」をまちづくりの大きな方向性として定めました。自治会等の地縁団体を対象とした「地域のチカラ協働事業」や市民活動団体を対象とした「市民協働モデル事業」といった補助事業により、協働・共創のまちづくりの主体となる皆さんを支援しております。

今年度も両補助事業の活用により、様々な取組が行われましたので、皆さんのまちづくり活動の参考となる事例集になればとの思いから、この報告書をまとめました。

地域のチカラ協働事業

目的

助け合う地域、住み続けたい地域、訪れたい地域の共創のため、住民の皆さんが主体的に取り組む、持続可能で自立化を目指す公益上必要な事業を、人的、財政的に支援するものです。

補助対象者

地区自治会協議会、地区コミュニティ推進協議会など

補助対象事業

「運営組織基盤の強化」「持続可能な収支計画」「市民活動団体や企業等との協働推進」の3つの視点が盛り込まれた、防犯、防災、福祉、コミュニティビジネスなど

市民協働モデル事業

目的

市民と市が協働で地域の課題解決にあたり、市民自治と協働によるまちづくりの推進を図ることを目的とします。

補助対象者

市民活動団体等（5名以上の構成員（うち過半数は鹿沼市民）とする）

補助対象事業

鹿沼市のまちづくり・地域づくりの推進を図る公益的な事業

掲載取組一覧

Ⅰ 地域のチカラ協働事業の取組

(1) 西大芦地区自治会協議会

- ・事業名：宅配弁当事業

概要：自前で食事の確保が難しい住民への弁当宅配及び見守り活動の実施。

- ・事業名：農産物市事業

概要：地域住民に買い物場を提供し、併せて地区外からの誘客を図る。

(2) 南押原地区コミュニティ推進協議会

- ・事業名：南押原地区友遊館事業

概要：幼児・子ども・高齢者サロン・健康麻雀教室・ゆうゆう食堂・ギャラリー等12事業。

(3) 東大芦地区コミュニティ推進協議会

- ・事業名：地域交流を生かした健康のまちづくり

概要：防風カーテンを芦の郷公園に設置することで地域交流拠点を充実。

- ・事業名：災害に強い地域づくり

概要：住民に防災意識を定着させるため、研修や講座を開催するほか、イベント性をもたせた防災訓練等を実施。

(4) 栗野地区コミュニティ推進協議会

- ・事業名：防災事業

概要：防災マップの作成、配布及び、楽しみながら防災意識を高められるイベントの開催。

(5) 清洲地区コミュニティ推進協議会

- ・事業名：環境にやさしいまちづくり

概 要：資源物回収拠点の整備、学校と合同で資源物回収、環境学習講話。

- ・事業名：災害に強いまちづくり

概 要：防災マップの作成と配付、防災意識醸成や知識習得のため講演会を実施。

- ・事業名：安全で安心なまちづくり

概 要：防犯カメラ設置やパトロールの実施、防犯意識を高めるため講演会を実施。

(6) 花と芸術の街・あわの実行委員会

- ・事業名：AWANO 夢咲く ART FESTIVAL

概 要：芸術イベント「AWANO 夢咲く ART FESTIVAL」の開催

2 市民協働モデル事業の取組

(1) 磯 GO!みらいの会

- ・事業名：イソマチマルシェ

概 要：地域の魅力を高め、様々な人たちと交流することを目的に定期的にマルシェを開催し地域を活性化。

令和6年度 地域のちから協働事業取組レポート

事業名

宅配弁当事業
農産物市事業

地区名

西大芦地区自治会協議会

代表者肩書・氏名

会長 大橋 悟

●事業の目的、目指す将来像など

基幹産業である農林業の衰退とともに地区人口が減少しており、高齢化が他地区と比較して加率的に進行している。また地区内唯一の学校である西大芦小学校が閉校し、地域コミュニティの活力が益々低下していくのではないかと懸念されている。

このようなことから、定住促進、交流人口・関係人口の増加により地域の担い手が確保され、コミュニティ活動の維持、活性化が図られること、及び地域住民、特に高齢者などが生活必需品や食事の確保に困らないことを事業の目的、及び目指す将来像として活動している。

●今年度の事業の取組実績

●宅配弁当事業

・旧西大芦小学校の給食調理室を利用して製造。配達時に地区住民（特に高齢者世帯・独居老人）への見守り活動を実施。
・現在、毎回100食程度の受注を確保しているも地区内人口の減少により受注数が減少。地区外（近隣地区）や事業所等からの受注獲得やイベント関連の受注、農産物市での総菜販売などによる収益確保に努めた。

●農産物市事業

・自力で地区外まで買い物に行くことができない住民への買い物の場の提供、地区外からの誘客を目的に、毎月第3日曜日に農産物市を開催。特に周年祭や感謝祭は通常より商品を充実させ、地区外からの出店等、大々的に開催。
・集客力強化のため、11月からポイントカードを導入し地区内全戸に配布。その結果、来場者、売り上げともに増加。さらに、上都賀地方農業振興協議会主催のいもいもメニューフェアへの協賛などの工夫も凝らした。

●今後に向けての展望、意気込み

●宅配弁当事業

・左記の受注確保の取組みを強化し、収益の確保、経営安定化に努めていきたい。
・また、地区内の高齢化により対象者は増加傾向であり、丁寧な説明により新規受注していきたい。
・引き続き、メニューの開発・研究やスタッフ研修にも注力し、物価高騰にあっても、できる限り高品質・低価格な弁当の提供を目標に、日々精進していきたい。

●農産物市事業

・魅力向上のため、地区の特性や強みを生かした展開や地区内のイベントとの連動性向上、出店者増加などを検討していく。
・客足が遠のく冬季の集客や運営方法について再検討する。
・若い担い手の確保が必要であり、農産物市ファンや出店希望者が農産物市の手伝いをしやすい環境を醸成していく。最終的には、主体的に運営に関わる人材を発掘していく。



宅配弁当事業



農産物市事業

令和6年度 地域のチカラ協働事業取組レポート

事業名

南押原地区友遊館事業

地区名

南押原地区コミュニティ推進協議会

代表者肩書・氏名

会長 鈴木 節也

●事業の目的、目指す将来像など

子ども数の減少、高齢者の増加など相反する社会現象にどう対処するかが大きな問題。放置すれば地域は姿を消す。今なら地域の人々が一致団結し、地域の存続、生活の安定化が図れる。その一つの方策として「友遊館」があり、NPO法人と企業のつながりの事業がある。現在、8年目を迎える友遊館は、利用者、ボランティア共に楽しめる居場所となっている。これは「おたがい様」の精神とつながり、目的達成の一場面でもある。事業を通して出てきた問題や課題を解決しながら、特に企業の力を借り事業充実を図ることがこれからの方向性と考えている。

●今年度の事業の取組実績

「地域のチカラ協働事業」が始まり3年目を迎えた。
地域の方々も少しずつ友遊館の事業を認識してきた様子が伺えた。
幼児から高齢者までが毎月1回、一堂に会して顔の見える事業展開を行い、地域の方と顔見知りになり、会話が增え、思いやりの心を育み、地域の絆がより深められていると感じる。
学習教室では、主に中学生が年間を通して毎週水曜日に学習に励んでいる。
隔年で開催しているおたがい様市では、地域内の若い世代が活躍している「磯GO!みらいの会」と連携することができた。「おたがい様市」と「イソマチマルシェ」の初のコラボ開催を実施して、お互いに集客や収益を得ることができた。
友遊館カフェでは、班員や地域の方々誰でもおいしいコーヒーを淹れることができるように「おいしいコーヒーの入れ方教室」を開催し、大盛況だった。

●今後に向けての展望、意気込み

目的に添った事業展開は、実施期間が長ければそれだけ課題が生じる。問題を一つずつクリアしていくことが事業そのものの発展・充実につながる。
常に事業内容や、世の中の変化等を見据えながら存続を考える必要がある。子ども数の減少、ボランティアの高齢化、事業のマンネリ化、新しい事業の創設と問題は山積みである。
事業内容の充実は予算的、運営の方向性等、人の力、企業の力が必要になってくる。今後も、「企業との結びつき」は必要不可欠である。
地域存続や豊かな生活は「人と人との深いつながり」が絶対条件である。
これらを十分認識し、個性ある地域、活力ある人々の暮らしを、友遊館を拠点として発信していきたい。市行政、企業との結びつき、地域の人々のつながりからくるパワーアップを期待し、これからも尽力していきたい。



おたがい様市



友遊館カフェ

令和6年度 地域の力を協働事業取組レポート

事業名

- ・地域交流を生かした
健康のまちづくり
- ・災害に強い地域づくり

地区名

東大芦地区コミュニティ推進協議会

代表者肩書・氏名

会長 寄川 良一

●事業の目的、目指す将来像など

地域で高齢化が進み、地域内で「支えられる人」の割合が増え、「支える人」の割合が低下している。また、最近では災害の規模が大きくなってきており、令和元年東日本台風での被害を超えるもっと大きな災害が起こる可能性がある。

そこで、高齢者が元気で居続けることで「支えられる人」が増えず、若い世代が地域にかかわってくれることで「支える人」が増え、お互いが強いきずなでつながり、誰一人取り残されない強い地域が住民主導で作られている将来像を目指す。

●今年度の事業の取組実績

「地域交流を生かした健康のまちづくり」では、防風カーテンを設置し、天候に左右されずに利用できる芦の郷公園で、ふれあいゲートボール大会を実施。広く地域住民に参加を呼びかけ、混成14チームを結成して、熱戦を繰り広げた。大会を通して地域住民の絆が強化され、地域交流の促進が図れた。幅広い年齢層での交流となるよう、参加者を募ることが今後の課題である。

「災害に強い地域づくり」では、7月に自主防災について講習会を開催し、8月に「東大芦地区逃げ遅れゼロ避難支援計画」と題して、民児協・消防団・グリーンホーム・社会福祉協議会と合同で研修会を開催した。さらに、11月に小学生家族と、担架搬送や災害伝言ダイヤルの使い方を体験する等の防災ゲームを開催。これらの事業を通して住民の防災意識を高め、住民が継続的に参加できる環境の整備に努めた。

●今後に向けての展望、意気込み

「地域交流を生かした健康のまちづくり」では、天候に左右されずかつ開放的である芦の郷公園の特性を活かして健康づくりイベント等を開催し、地域内の健康維持を図っていききたい。そして、イベント等を通じて世代間交流を促進し、地域の絆を深め、強固なものとするこで、若い世代の地域外への流出を抑制する。地域の若い担い手「支える人」を増やし、将来像へ近づける。

「災害に強い地域づくり」では、より多くの地域住民に「自主防災」の意識付けを行い、さらに継続的に参加できる環境を整備する。そのために、今年度と同様の事業を繰り返し実施し、東大芦地区自主防災協議会の定着と、住民の防災意識の定着を図っていききたい。さらに、防災リーダーを育成して、大きな災害が起きても誰一人取り残されない強い地域を、住民主導で作っていく将来像を目指す。



第41回ふれあいゲートボール大会



逃げ遅れゼロ避難支援計画合同研修会

令和6年度 地域の防災協働事業取組レポート

事業名

防災事業

地区名

粟野地区コミュニティ推進協議会

代表者肩書・氏名

会長 野原 裕

●事業の目的、目指す将来像など

災害時における被災後対応など数多くのノウハウ習得が必要であり、自主防災意識や地域内助け合い意識の高揚を図り、加えて地区住民の中若年層をターゲットに自主防災組織内の役割を周知し理解を得るために、イベント「防災フェスタ」を開催し、災害の疑似体験や避難所体験を通して有事に備える。昨年度に作成した粟野地域版防災マップを活用し、住民が「自分の身は自分で守る」を目指すため、近所の要援護者への声掛けや援助のシステム構築が必要であり、今後起こりうる災害に対し、対策を講じるためにも定期的な研修会を開催する。

●今年度の事業の取組実績

粟野地域版防災マップを活用し、各家庭で有事の際に避難行動計画の作成や避難行動等の取り決めをしてもらうよう研修会を開催【第1回：10月26日、第2回：2月下旬予定】
「あわの防災フェスタ2025」を令和7年1月26日（日）に開催、粟野地区コミュニティ推進協議会の支援団体や鹿沼市内外の市民団体や防災関連企業の協力参加を得て、楽しみながら防災意識を高めることをコンセプトに実施。
災害の疑似体験や避難所体験、アルファ化米試食など様々な体験メニューや展示を用意して、小中学生などの若年層に被災直後の対応などを意識した防災教育や粟野地区住民の自主防災意識や地域内助け合い意識の高揚を図った。【協力団体・企業：学生団体Rainbow、NPOさいたま市民キャビネット、陸上自衛隊宇都宮駐屯地、NTT東日本㈱、HondaCars栃木中央】

●今後に向けての展望、意気込み

令和5年度に作成・配布した「粟野地域版防災マップ」をもとに実施中の防災研修会を、対象となる複数の自治会住民に対し隔年で定期的実施することで、住民の防災・減災に対する意識の継続を図り、各家庭において年々変化する気象状況に対応した避難行動計画の策定や見直しを図る。
自主防災意識や防災ノウハウの習得、地域内助け合い意識の高揚を図るためにも「あわの防災フェスタ」の毎年開催を継続する。参加者アンケートを実施し実施時期等を模索する。
今後も継続して新たな市民団体や防災関連企業の参加協力を市内外問わず働き掛けや、NPO法人とのマッチング会にも参加し、「あわの防災フェスタ」出展ブースの充実を図る。
粟野地区内の各自主防災会（口栗野・中栗野・入栗野）が管理する「防災倉庫」装備品の充実や点検、使用方法の訓練を実施する。



防災研修会(10/26)



「あわの防災フェスタ2025」(R7.1/26)

令和6年度 地域のチカラ協働事業取組レポート

事業名

安全で安心な清洲づくり
自分たちのまちを自分たちで守る

地区名

清洲地区コミュニティ推進協議会

代表者肩書・氏名

会長 益子 純夫

●事業の目的、目指す将来像など

清洲地区では、「環境」「防災」「防犯」の3つの観点から3部会を設けて事業に取り組んでいる。①住民と部会員の各観点への意識を高めること。②本事業により整備した機器・物品等を継続・有効活用すること。③既存の事業や地区内の関連団体との連携・協働を進めていくこと。④全体・部会・中心となる役員での協議を大切にする。この4つの点を念頭に、事業名の「安全で安心な清洲づくりー自分たちのまちを自分たちで守るー」に取り組んでいく。

●今年度の事業の取組実績

《環境部会》

- ・「資源物回収倉庫設置、活用促進」
ーR6からPRと回収を実施
- ・「環境学習講座-手作りエコバック教室」講師：市環境部職員ー小学生親子を対象に夏休みに開催
- ・「小学校・地域合同の資源物回収」
ー学校・地域協働活動として、2つの小学校の児童とPTA、自治会、コミュニティが参加
(秋に中学校にも資源物提供)

《防災部会》

- ・「防災マップの活用」「要支援者情報の共有と個別訪問の実施」「自治区防災倉庫の一斉点検」
ーみえてきた課題から実施へ
- ・「きよすマルシェで防災エリア設置」
ー防災体験とチラシ配付(啓発)

《防犯部会》

- ・「防犯カメラ設置」ー使い方の確認、点検実施(継続活用に向けて)
- ・「防犯パトロール」「きよすマルシェにおける啓発活動」「防犯診断」
ー地区内団体と連携。実施方法をさらに協議しながら強化へ
- ・「防犯講演会開催」
ー講師：市消費生活センター職員

●今後に向けての展望、意気込み

本地区ではこの2年間、市から示された地域のチカラ協働事業の趣旨と3つの視点を念頭に、役員、協力団体の方、アドバイザーの方が、膝を突き合わせて協議を重ね、事業に取り組んできた。その中で、地区や各自治区の課題がみえ、そこからアイデアと新たな取組が生まれた。

2年間の成果として例を挙げると、住民の意識向上を考え、事業に取り組む中で生まれたのが、「ラジオ体操の後に行われたクリーン活動(子ども会の活動)」である。

また、地域の課題に取り組む中で実施に至ったのが「防災倉庫の点検」と「防犯診断」である。

本事業の取組が自治会へ、そして地域団体へと広がりがみられた。

3年目の位置づけは、「補助事業終了後の事業継続に向けて」である。そのためには、事務局との新たな関係づくり(組織の自立)という難しい課題もあるが、これまでの取組で得ることができた「広がり」を大切にしながら、「安全で安心な清洲づくり」に、さらに取り組んでいきたい。



防災倉庫の点検(防災の日)



学校・地域合同リサイクル活動

令和6年度 地域の文化協働事業取組レポート

事業名

AWANO夢咲くART FESTIVAL
プロジェクト

地区名

粟野4地区合同
(粕尾地区コミュニティ推進協議会)

代表者肩書・氏名

会長 神山 義一

●事業の目的、目指す将来像など

地域の財産である美しい自然や歴史ある文化財を活かした芸術・文化的活動が身近なものになり、地域住民が心豊かに生活を営み「住んでよかった、住み続けたい」と思える誇りの持てる地域を目指す。
さらに、学校や地域の文化、経済団体との連携を深め、子どもの豊かな感性の育成、地域活性化を視野に入れた活動、また、芸術家が移住し住民を巻き込んで展覧会を開催したり、地域とアートをつなぐ活動をすることで、地元の若者世代が自発的に地域の活性化を考え取り組むような環境や流れをつくり、地域の担い手を育てていく。

●今年度の事業の取組実績

(1) AWANO夢咲くART FESTIVALの開催

11月9日～24日に、粟野地域5会場(粟野中、旧粟野中、医王寺、常楽寺、そば処嵯峨の庭園)で作家11名による絵画、彫刻等の展覧会を開催した。来場者は、延べ3,712人であった。

会期中には、音楽会、和太鼓の演奏などのアートステージ、地域住民及び一般参加者を対象としたワークショップや粟野中学校での鑑賞授業を実施した。

また、地域店舗の協力を得て、土日5日間のマルシェの実施やお菓子の商品開発を行い、さらにはアートズッグを展示会場及び特設カフェで販売した。その他、作家の小作品をカフェ併設の蔵のギャラリーで展示販売した。

さらに、展示会場の入場を有料とし約800人の購入があった。

(2) 道祖神プロジェクトの実施

これまで、実行委員会として行ってきた双体道祖神の視察研修や粕尾小学校での学習会の実績を踏まえ、活動のまとめを行った。地域の道祖神研究家の方のインタビューを再度行い紹介した。来場者へのワークショップとして、粟野中美術部による「切って開いて道祖神」を会期中の土日に実施し、紙で制作した小さな道祖神が粟野地域を模したジオラマに展示された。

●今後に向けての展望、意気込み

(1) AWANO夢咲くART FESTIVALを“きっかけ”とした地域の活性化

アートフェスティバルでは、今後も粟野地域での展覧会を企画し、より充実した内容を目指す。作家の公募を検討し、さらに地域作家との連携を図った展示を行う。アートが身近なものになり、心豊かな生活を送るきっかけとなるような存在にしたい。

また、志を同じくした仲間、他団体との連携を図り、マルシェの実施や地域の方が参加しやすい活動を検討する。フェスティバル実施により、地域活性化に積極的に取り組む人材を育てていきたい。

(2) 空き家を活用した芸術活動

芸術家の移住促進を図り、地域の方と交流しながら活動することで地域の賑わいをつくっていく。

(3) 道祖神プロジェクトの継続

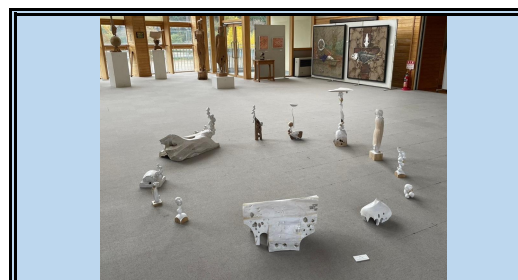
双体道祖神を中心とした地域文化財の周知活動を続けながら、伝統文化の継承やアートとしての新しい道祖神の制作を進め、各地区への設置を検討する。

(4) 補助金の申請も含め、自主運営に向けての自主財源の確保を目指す。

(5) 持続可能性を高めるため、法人格を有する活動団体への変更を検討する。



旧粟野中学校道祖神ワークショップ



粟野中学校展示風景

令和6年度 市民協働モデル事業取組レポート

事業名

イソマチマルシェ

地区名

磯GO！みらいの会

代表者肩書・氏名

会長 鈴木 節也

●事業の目的、目指す将来像など

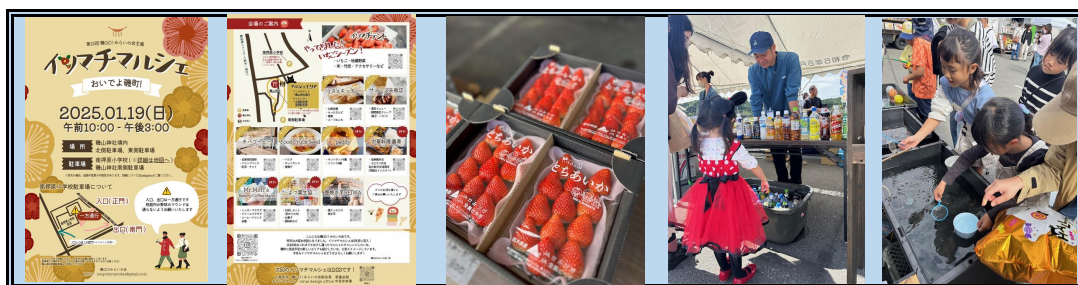
磯町は純農村地帯で人口も減少、超高齢化社会にある。年々人との交流も少なくなり、寂しさを増している。この状況を少しでも解消し、誰もが豊かで安定した生活ができる地域おこしをすることは喫緊の課題である。その課題解決のため、若者による「磯GO！みらいの会」が発足した。「地域の人に現状の認識と郷土愛を育んでもらう」「地域の農産物のブランド化を図る」「キッチンカー応援による集客を図る」これらの目的を達成するために令和5年より、年間6～8回のイソマチマルシェを開催している。この先は、自治会、企業との連携を図り、運営のノウハウを知り、発展・充実と、地域おこしに役立てたい。

●今年度の事業の取組実績

磯GO！みらいの会主催「イソマチマルシェ」は、令和6年度は6回実施。地域の特産物イチゴ、ニラ、地元野菜の直売の他、キッチンカーの出店販売、企業による製品販売、ワークショップ等の内容で開催された。毎回、500～1000名以上の集客、商品はほぼ完売した。6月は磯山神社の「あじさい祭」とコラボ開催し、約20店舗の出店。小中学生や地域の高齢者にもスタッフとして参加してもらうほどの盛況ぶりであった。10月には自治会が支え合い事業として実施している「おたがい様市」を南押原友遊館と共催で行った。他地域の多くの人との交流は互いの事業内容を理解し合えた。また、人と人との仕事を通しての触れ合いは知らない人たちとの交流が生まれ深まった。他の団体とのコラボは、互いにこれからの運営面でプラスになり新たな方向性も生み出している。1月に実施のマルシェは、磯町特産物のブランド化を図る販売の工夫もなされ、一味違うものとなった。

●今後に向けての展望、意気込み

磯GO！みらいの会の事業のひとつに「イソマチマルシェ」があり、磯町の地域おこしに役立っている。これから先のマンネリ化を防ぎ、さらに発展・充実していくことを考えると、企業とのコラボレーション、地域住民の多数参加が不可欠である。現在、出店店舗の一つであるコッペパンジャーニーさんと地域の子どもたちが共同で計画、製造、販売までを行うことが実現しようとしている。自分たちのアイデアパンが実物になり、自分たちの手で売られ、買い手に喜ばれるこの一連の動作は一生忘れられない感動の記憶となるだろう。少子高齢化社会においては、支え合い、助け合い、おたがい様の精神が必須であるが、マルシェをきっかけにそれらが芽生え地域全体に一体感を生んでいる。無償ボランティアで臨むスタッフが回を重ねるごとに増え、世代の垣根を越えての参加となっている。また、年に何度も開催することで定期的な交流が生まれている。これぞ成果の一つである。次回のマルシェは地元産の野菜や米を使った豚汁やおにぎりを初めて振る舞う予定。さらに再来月は初めてのパンフェスを予定している。



イソマチマルシェの様子